



土木科

Okinawa
Technical
HighSchool

戦力協心 <一人ではなし得ないものがここにある>

土木科3年 桃原諒 儀間悠斗 喜屋武幸太

沖縄建設新聞に掲載されました

COOL

沖縄工業(那覇市)

県外志向が多め 科集会で情報共有

沖縄工業高校の土木科について、知念豪俊先生は「地図に飛ぶ仕事が好き」といなど、意思を持って入学してくる生徒が多い。今年、十数年ぶりに入学した女子生徒2人も一緒です」と話す。

授業内容は美来工科と同じ。「インフラ建設の現場作業の方法も学ぶが、目指すのはそれを計画・設計・管理する人材。そのため、測量と土木施工を両輪としながら、土の種類や質を学ぶ『土質実験』=上写真=や、河川を計画する時の水の流れや水圧などを学ぶ『水理実験』=下=といった研究をする授業もある」。

卒業後は2割が進学8割が就職するが、そのほとんどが土木の道に進む。さらに



水理実験の様子。水を流して流れ方や勢いを確認することで、川の形状を検討する

「より大きなプロジェクトに参加したい」「県外で技術を磨きたい」などの理由から、半数以上が県外を目指すという。求人は県内外からあり、「沖縄工業には6学科あるが、学校に来る求人の2~3割が土木科に対するもの」と知念先生。

測量で九州1位 全国大会へ

資格取得に力を入れており、「2級土木施工管理技士補」は毎年30人ほどが合格。より難関な「測量士補」に関しては、昨年度9人が合格しており、これは学科創設以来、最多だという。

そのうちの一人、桃原諒さん=右写真=は、ものづくりコンテスト沖縄大会の測量部門にチームで出場し、2年連続の最優秀賞を受賞。さらに、7月8・9日に開かれた九州大会でも県勢初の最優秀賞に輝き、11月には全国大会に出場する。

また、今年度からは、学年の枠を超えて土木科全体で交流する「科集会」がスタート。知念先生は「資格試験や進路など先輩から後輩へアドバイスする姿もあった。今後も続けたい」と話した。

わが校の
ここがイイ!

土木科3年(左から)

桃原諒さん、儀間悠斗さん、喜屋武幸太さん



◆沖縄工業の土木科を選んだ理由

(喜屋武) テレビの特集で、土木が社会のインフラを支えていることを知り、土木に憧れるようになった。高い就職率と進学率、長い歴史にひかれて入学した。

(儀間) 最初は建築科と迷った。でも土木科なら、より幅広いものに関わることができ、造ったものが地図などに残っていくと知り、魅力を感じたから。

◆大変なこと、面白いこと

(儀間) 覚えることは多いけど、専門分野を学べるので将来的に武器になる。習得の実習は、穴を開けるなど失敗が多い分、できると達成感がある。

(桃原) たくさん資格を取れるのがいい。測量も最初は難しかったけど、感覚をつかめると楽しいし、誤差がゼロになったときはすごくうれしい。

◆将来の夢

(桃原) 大学で土木をもっと深く勉強してから、何十年もかけて造るような大きな構造物の監督をしたい。

(喜屋武) 長く残り続けるトンネルや橋などの大きな現場を担当したい。孫ができたときに「ここ、俺が造ったんだぜ」と自慢できるようにしたい。